

(様式第1号)

平成24年度 第3回芦屋市社会教育委員の会議 会議録

| | |
|-------|--|
| 日 時 | 平成24年9月11日(火) 15:00~17:00 |
| 場 所 | 北館2階 第4会議室 |
| 出席者 | 議長 樋口 茂 副議長 牧野 君代 委員 安東 由則 委員 信岡 利英 委員 古藪 令子 委員 田中 陽子 委員 上月 敏子 委員 万谷 直巳 |
| 事務局 | 社会教育部長 西本 賢史 生涯学習課長 長岡 一美・生涯学習課主査 細山 由美・生涯学習課 北詰 真衣 |
| 会議の公表 | ■ 公 開 |
| 傍聴者数 | 0人 |

1 会議次第

(1) 開会

(2) 議題

①平成24年度兵庫県社会教育委員研究大会兼

平成24年度近畿地区社会教育研究大会(兵庫大会)の報告

②阪神南地区社会教育委員協議会第1回役員会(総会)の報告

③阪神南地区社会教育委員協議会研修会の発表内容について

④テーマについて

(3) その他

(4) 閉会

2 提出資料

・レジメ

・兵庫大会分科会レジメ

・阪神南地区社会教育委員協議会第1回役員会(総会)資料

・平成23年度阪神南地区社会教育委員協議会研修会芦屋市発表資料【参考】

・発表内容の概要(芦屋市)【参考】

・研修会の発表内容(案)

3 審議内容

<樋口議長>

議題①について事務局から報告をお願いいたします。

<事務局：北詰>

(提出資料に基づき報告)

<樋口議長>

盛況な会議でございました。ご参加いただいた委員の皆様からなにか感想を一言ずつお聞かせいただけたらと思います。

<古藪委員>

分科会でのコーディネーターの方のお話を聞かせていただき、コーディネーターの方は、学校と地域をつなぐすごく良い役目をしていると思いましたが、芦屋市にそのまま適用させるのは難しいと感じました。

発表された上富田町は、地域が小さく、全校併せて芦屋市の1学年規模くらいの感じなので、精道小学校で実施されているSmileねっとのコーディネーターの役割とは少し違うように思いました。コーディネーターとして地域に根付いている方のお話は参考になりました。

<信岡委員>

基調講演では、鳥越先生のお話は非常に興味深かったです。

分科会では、発表者はすごく良く頑張っている方だと感じました。

学校の規模については、古藪委員の言うとおおり、芦屋市と比較すると小規模です。また、本質的に違うのは住民だと思います。いわゆる村社会で、住民が地縁関係など非常に近い関係にある地域だろうと思います。本市の場合は住民の出入りが非常に激しいです。そういう意味では、地域の住民が学校と連携を強めるという点ではだいぶニュアンスが変わるなと感じました。

<安東委員>

活動を継続的にやっていくために、芦屋市でどういう仕組みを作ろうかという時の参考になるかと思います。しかし、システムだけでは動きませんし、個人の力だけでも動きません。どういう風に、本市にあったシステムを作っていくのが課題になると思いました。

<万谷委員>

基調講演につきましては、歴史的に見ると150年が1つのサイクルで、人口に係る成熟型の成長期に入り、価値観が変わってきているという点に非常に興味を持ちました。これから社会教育が発展する時期に入っているのは事実だと思いますので、そういう意味ではものすごく興味を持って聞いていました。

分科会ですが、小さな村社会という地縁型の地域ということもあり、都市においては、適用するのは難しいと思います。しかし、補助金がなくなりコーディネーター費を市単費で支出している点につきましては、社会教育に対する取組みや考え方が本市と違うと感じました。

地縁型の社会というのは、絆がありますので、これから南海トラフ等の災害が起きた時に、地縁がとても大事になります。自助、共助、助け合いが必要になり、それが社会教育の一つの根幹になりますので、そういう点で参考になりました。

<牧野副議長>

基調講演では、春の小川の歌に例えて、現在では環境を平気で破壊し、それは人間関係も同じように破壊しているという話をしてくださいました。

震災以後に、養父町の公民館に受け入れていただいて、子ども達を連れてキャンプに行きました。その村長のお話で、「小さな虫が、きちんと生きていける社会にしないといけない」と子どもたち言われていたのを思い出しました。

分科会では、やはり人と人をつなぐ役割というのが重要だと思いましたし、芦屋も地縁関係の方たちが中心になって動けば大きな力になるのではないかと思います。

今日の午前中に宮川小学校で防災訓練がありました。子どもだけでなく、地域の人たちにも声かけて、地域の方100名くらい参加をされていました。やはりそういうところでつながりを大事にしていくことと、つないでいくのが人の役割である感じました。

<樋口議長>

和歌山県は、学校を支援する地域共育コーディネーターを、それぞれの市町から推薦を受けて任命をし、教育委員会の中にデスクを置いて活動をしているとお話していました。県の任命を受けた方が県内に40人いるそうです。

やはり学校としても地域としても、そういう方がおられることがお互いの信頼につながっているのではないかと感じました。芦屋市においても、地域からも学校からも信頼される方が育っていってくれればと思います。そういう方を発掘し、育成していくことは、本市でも出来ることではないかと思います。

<樋口議長>

それでは、議題②の阪神南地区社会教育委員協議会第1回役員会（総会）についてご

報告をお願いします。

<事務局：北詰>

(提出資料に基づき報告)

<樋口議長>

本来であれば、総会を兼ねた第1回役員会の後、研修会の前に第2回の役員会をして、研修内容について詰めるという流れですが、今年度の会長市の日程の都合上、第2回役員会を実施できないので、総会時に研修会の内容について話し合いました。

今年度も昨年度に引き続き、学校地域連携についてをテーマに、講師を招いて講演会をするのではなく、昨年と同じように3市の事例を報告する中で共通課題を見出す形で決まりました。

日程は11月27日です。昨年度は古藪委員と上月委員にご発表いただきました。今年はどうな形で発表を行うかについては次の議題で話し合います。

また、伊丹の図書館の見学についてですが、西宮市が、学校と地域を連携する中の一つの取組として市立図書館と学校図書館の連携やボランティアの関わりについて諮問を受けているそうです。それを発表するにあたり、西宮の赤尾委員は伊丹市の社会教育委員も兼ねていて伊丹市の図書館は非常に素晴らしく参考になるというお話と、芦屋市の中でも会議の中で伊丹市に新しく出来た図書館に非常に興味があるという意見もありましたので、伊丹図書館に阪神南として視察研修に行ってはどうかということで、お願いをすることになりました。

今年度の阪神南協議会の事業としては11月27日の通常の研修会と、10月30日に決まった伊丹市の図書館の視察の二つになります。

<樋口議長>

それでは、議題③の阪神南地区社会教育委員協議会研修会の発表内容についてご説明をお願いします。

<事務局：北詰>

提出資料に基づき説明

<樋口議長>

発表者は多いほうが良いのですが、Smileねっとは県の2年間の委託事業を受け実施していましたが、その前段として、浜風小学校の学びクラブの事例があります。浜風小学校と精道小学校が芦屋市の中では先進事例として進んできております。

教育委員さんとの懇談会でも発表されました、芦屋の学校支援ボランティアハンドブ

ックについても、今回一緒にPRして発表させていただくのが良いのではないかと思います。発表の中身について、Smileねっとのその後について、発表者は古藪委員か上月委員のどちらかにお願いしたいと思います。

また、もう一人は学校に関わりのある委員さんの中で、田中委員さんをお願い出来ればと思います。

－古藪委員，田中委員に了解を得る－

<事務局：北詰>

内容について確認ですが、主軸がSmileねっつとで宜しいでしょうか。

<樋口議長>

Smileねっつとだけに絞ってしまうよりは、学校地域連携として、Smileねっつの1校だけではなくて、その前段に浜風学びクラブがあり、その流れが精道中学校にも広がり、他校にも波及しつつあるということと、それに対する課題について考えるような内容でいかがでしょうか。

前年の場合は発表の前に予行演習をしました。予行演習の日の午前中にSmileねっとの総会に出席させていただいたので、Smileねっつとをより理解する上で非常に良かったと思います。

<事務局：北詰>

11月13日でしたら、Smileねっつと園芸ボランティアの活動日になっています。園芸ボランティアと園芸委員の子ども達が活動しているところを皆さんに見ただいて、その後でSmileねっつとの運営委員との意見交換の場を持たせていただき、ボランティアの想いを発表の中身に組み込んではどうでしょうか。

<樋口議長>

Smileねっつとの活動の現場を見学させていただいて、各社会教育委員には出てきた意見や課題とかに対して、幅広い視点でアドバイスいただければと思います。

また、10月30日の伊丹の図書館に行っても、色々刺激を受けることも多いと思います。実りのある研修会にしたいと思いますので、ご意見をお願いします。

<安東委員>

芦屋の特徴としては、コミスクがありますが、地域連携の柱としては、コミスクとSmileねっつとが柱になるのではないかと思います。それらの調整は、どのようにされていますか。また、コーディネーターはどのような形ですか。

<古藪委員>

精道地域の中の精道コミスクですので、Smileねっとの一員として自治会等と横並びの形でコミスクも参加しています。配布物など協力できるところは協力しております。また、個人的にコミスクから地域の人として様々なボランティア活動に参加しています。コーディネーターはコミスクとは別です。

<事務局：北詰>

宇佐見教育委員が、以前精道小学校のPTAの会長をされていたという関係で現在もコーディネーターをしていただいています。

<樋口議長>

任命はされているのですか。

<事務局：北詰>

任命などの正式な形はとっておりませんが、精道小学校をモデル校として、学校地域連携促進事業の実施が決定した時から、ずっと中心になって協力をいただいています。

<牧野副議長>

コーディネーターはお一人ですか。

<事務局：北詰>

昨年度は、精道小学校の元教員の方にもコーディネーターとしてご協力いただいたのですが、勤務形態も変わられたということもあり、一緒に活動するのは難しくなってきたので、現在は一人です。

<万谷委員>

私は、コーディネーターとしての役割というのを、報償金の有無に関わらず、公に認知をしていく必要があると思っています。公に認知することによって活動の存在価値に広がりが出てくるのではないかと思います。

<古藪委員>

他校への広がり言えば、今年から精道中学校でも組織が立ち上がっています。

<牧野委員>

精道中学校のコーディネーターも宇佐見教育委員がされているのですか。

<事務局：北詰>

精道中学校のコーディネーターについては、現在、芦屋市PTA協議会の副会長でもあり、精道中学校の今年の会長をされている方がされています。

芦屋市に「本の虫ねっと」という図書の読み聞かせボランティアの連絡会がありますが、その世話役もされている方で、宇佐見コーディネーターとよく活動をされている方です。Smileねっとの活動がすごく良かったので、精道中学校でも出来ないかという事で動かれて、今に至ります。

<樋口議長>

何らかの関わりがある、動いてくれそうな人が、人とのつながりの中で地域の中に入るところから始まり、広がってきているのだと思います。これは、任命や委嘱などの形で出来ることではないです。

<事務局：北詰>

本当にその地域の方の思いが湧き上がるところで、組織が立ち上がって活動が広がってきています。今の教育委員会の立ち位置としては、PTAや地域の方が主体になって活動するところを側面から支援をしていく形に関わって行きたいと思います。

<安東委員>

行政が何らかの形で支援するようなものがが必要です。それがなく、ボランティアだけに任せることになると、どうしても不安定になります。

<事務局：細山>

コーディネーターの育成という部分では、Smileねっとの今年度の引継ぎの際でも課題になっておりました。現在も宇佐見教育委員が引き続きコーディネーターをしてくださっておりますが、宇佐見教育委員の次に誰か考えた時に、現状ではやはり難しいと思います。個人とのつながりに頼ってしまう部分があります。

<樋口議長>

和歌山の場合も、最初からコーディネーターとして出来上がった状態の人に指名していたわけではなく、PTAの先輩の紹介でボランティアとして活動を始めて、その中で積み上げてきた中でコーディネーターとして指名を受けたという形でした。

芦屋の場合も同じだと思います。取り組みを進めていく中で、後継者の課題を、どのようにサポートし見守っていくかということ、昨年度からこの社会教育委員の会議の中で協議しています。

<牧野副議長>

Smileねっとしでも精道中学校にしても、コーディネーターは個人的にとても一生懸命にされています。今の方がいる間は良いのですが、やはりコーディネーターの育成と、コーディネーターの認知をしていかないと、続かないのではないかと思います。

浜風小学校も色々な団体を巻き込んで活動をされていると思いますが、コーディネーターはどのようになっていますか。

<田中委員>

山田元校長先生がいらっしゃる時に立ち上げられて、退職された後も、校長先生、教頭先生が中心になって動かれているところに、PTAもお手伝いしているという形です。活動を実施しながらも、色々見直さなければならぬところもありますがずっと続けています。

中心になる人、引き継いでいく人がいらっしゃらなくなってきました。

<牧野副議長>

精道小学校にしても精道中学校にしても、コーディネーターが頑張っているから、ここ何年かは大丈夫かと思いますが、おそらくサポートして下さる方もたくさん増えてきているとは思いますが、ボランティアに任せておくのではなく行政の方も考えていかないといけないのではないかと思います。

<万谷委員>

お2人のコーディネーターは色々な形で実績を持っておられます。今聞いていると精道小学校、精道中学校の広がりがありますが、どこまでの広がりになっているのか、疑問です。お二人をある程度核として、他に広げることが大事であり、そういったところから、コーディネーターの認知は必要ではないでしょうか。そして、違う学校に広がる際の指導をするなど、予算もかからないし、市として支援してあげるべきだと思います。

<事務局：長岡>

最初は特に個人の力がすごく必要だと思います。今はまだその段階で、やっと取り組みが始まったというところでは。それぞれすごく熱意を持った方がいらっしゃったので、その方の協力が非常に大きいです。

おっしゃるように生涯学習課の方も、協力はもちろんしなければいけないと思っています。お金の面では紙代や印刷代などを支援しています。また、情報交換の場を設けることは出来ると思いますし、後継者の課題もありますので、コーディネーター養成の研修等で、協力をしていけたらと思っています。

<樋口委員>

流れとしては出来てきております。それを仕組み的に、人的に、どう広げていくかが課題です。

芦屋市の地域学校連携という1つのテーマについてこの社会教育会議で今年も取り組みをさせていただき、何が出来るか考えていきたいと思えます。

<事務局：北詰>

発表の内容について、今回提出している案をもとに、先程ご意見をいただいた、精道中学校、浜風小学校の内容も組み込んで、発表者と個々に打ち合わせをして詰めていきたいと思えます。おそらく昨年度のようにプレゼンテーションをする時間がありません。

次回の意見交換の時に資料を出したいと考えています。その資料に基づいて、また意見をいただき、あとは本番にむけて発表者と詰めていく形で進めていきます。

<古藪委員>

発表の流れですが、芦屋市における学校と地域のつながりの流れとして、浜風小学校でまず最初に活動を始め、その次に、県の事業ではあったけども、Smileねつとが立ち上がって、委託期間が終わっても現在継続している状況、その中から精道中学でも組織が立ち上がることが出来、今他校に波及しつつある。という感じの1本の形が出来ると思えます。コーディネーターの認知やコーディネーターの継続性、育成を課題として残していく形ではいかがでしょうか。

<万谷委員>

課題が残っていることも含めての内容の方が良いと思えます。

<信岡委員>

昨年発表した内容と同じでも、その取組が正しかったのだという証明にもなるので、それはそれで良いかと思えます。継続できているということが大切です。

コーディネーターについては、認知は必要だと思えます。市民に周知をし、本人も地域に認めていただいているという認識で、また正しい行動にも移せると思えます。

<樋口議長>

それでは、研修会に関わる内容を次回までに修正していただきますようお願いします。

<樋口議長>

それでは、議題④のテーマについて事務局から説明をお願いします。

<事務局：北詰>

前回の会議で平成24年度のテーマについて協議いただいた結果、学校地域連携に主軸をおいて取り組むことになっておりました。委員の皆様から、今年は行動する社会教育委員として、机上で協議するだけではなく、現場にも出て行き、現場を知って、何が出来るかなどを話し合うのもいいのではとの意見も出ていました。

10月の伊丹の図書館の見学を通して、なにかヒントを得られるかもしれませんし、11月の研修会を通して、社会教育委員としてどのように連携して関わっていくかを得る機会もあるかと思えます。

具体的に残り2回の会議でどのように具体的に取り組むかについて、ご協議いただければと思います。

<樋口議長>

各社会教育委員が、それぞれされている活動の中で、考えたことや話をしてきたこと等を共有する必要はあるかと思えます。

また、1つは学校地域連携という中で、今回、西宮市の課題として上がっている市立図書館と学校図書館との連携については、伊丹の図書館に見学に行き、11月の研修会で他市の色々な発表を聞いて、芦屋市でも考えていけることだと思います。

私は芦屋という土地柄、子どもと関わる機会があれば、地域の人も学校に入りやすいと思います。子どもがいるというだけで目の輝きが皆さん違ってきます。できるだけ子どもを見る機会を持っていただくということが大事だと思います。

<上月委員>

伊丹の図書館には大きいヒントがあると思います。取り入れられることはぜひ芦屋の市立図書館に取り入れていただきたいと思えます。伊丹の図書館は市民全体が活用できる、例えば障害福祉や社会体育といったような広い観点から出来た図書館であると聞いています。私が行政にいた時に、子ども読書の街づくり事業を3年間させていただきました。今も市立図書館と学校図書館は連携していますが、一歩踏み込むことが非常に難しいです。学校図書館は昨年、電算化をしていただき、非常に活性化してきました。電算化の次にあるのは、市の図書館との電算です。西宮市にはもう10年前からそのシステムがあります。予算がないと出来ないのが難しい点は理解できますし、教育に関しては優先順位を付けていかないといけません、何か一つでも広がるものがあればいいと考えています。

<田中委員>

先日、美術博物館の会議に出席させていただき、会議の中で美術館に子ども達もつと足を運んだ方が良くはないかという意見がでました。子ども達が少しでも図書館

や美術博物館に足を運んで行きやすい環境づくりを作っていけたら良いのではないかと思います。

<信岡委員>

学校と地域の連携とは、南海トラフ等の災害時に役立つような土俵を作っておきたいなと思います。これは社会教育や教育だけではない、市民全体の問題です。学校と地域の連携を強めようというこの言葉の中に、災害の事を来年はぜひ入れておかないといけないのではないかと思います。いつ起こるかわからない問題ではあるけれども、災害時にいかに学校と地域が連携できるのかという事を、社会教育委員会議で模索してみるのもいいかと思います。

<万谷委員>

私も、いま、防災士の勉強をしています。信岡委員と同じ考え方で、また、昨年の京都大会でもありましたように、防災・減災についても社会教育の重要なテーマがあります。この防災の危機管理意識を課題として教育委員会としても考えないといけないと思います。

<樋口委員>

社会教育の原点としては、図書館の図書の活用が充実することが大事ですので、今回の伊丹図書館の見学を通して、またアイデアをいただけるのではないかと思います。

次回11月は研修会の準備もありますが、それだけに関わらず、見学の感想等を聞かせていただいて、第5回、第6回の中身をお聞かせいただければと思いますので、それでまとめさせていただこうと思います。

それでは、議題といたしましては、予定していたものを以上で終わらせていただきます。

<事務局：北詰>

今後の日程 10月30日（火）13：30～ 伊丹図書館見学

11月13日（火）10時から12時 第4回会議 精道小学校

11月27日（火）15：00 研修会 西宮市

以上